

臨床薬理学

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・三浦靖彦

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：36

■ 授業概要

薬物の体内動態や薬理作用・副作用に関する知識、健康回復過程における様々な薬物療法とともに、薬物療養中の患者支援や服薬指導に関する基本的知識を教授する。さらに小児・妊婦・授乳婦・高齢者などの特殊な身体状況にある患者への安全な薬物の投与方法や危険性、法令に基づく薬物の管理方法について教示する。

■ 到達目標

1. 医薬品の作用に関する特徴、体内動態とその影響、適正な使用について理解し説明できる。
2. 主な疾患の原因と症状を学び、使用する薬物の有効性と重篤な有害反応の症状を理解する。
3. 薬物療法における患者の安全面、看護における注意点を理解する。

■ 教育内容

人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進

■ キーワード

医薬品、生活習慣病、がん・痛み、脳・中枢神経系疾患、感染症、救急救命時、アレルギー・免疫不全状態、消化器系疾患など。教科書の各章のはじめにある Keyword を参照。

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	医薬品総論	医薬品、関連する法律、作用原理とその影響、薬物動態と有害作用、適正な使用 講義	三浦
2	感染症に使用する薬	感性症、細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症、消毒薬、予防接種薬	三浦 種薬
3	免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬	免疫概論、自己免疫疾患、炎症、アレルギーに治療薬、予防接種	三浦
4	がんを使用する薬	がん概論及びの薬物療法の理解	三浦
5	末梢神経に作用する薬	神経系概論、交感神経・副交感神経に作用する薬	三浦
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬	中枢神経系の働きと薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、アルツハイマー型認知症治療薬、向精神薬、睡眠薬の病態と、各種薬物療法の理解	三浦
7	循環器系に使用する薬	高血圧、不整脈、心不全、心筋梗塞等の病態と各種薬物療法の理解	三浦
8	血液・造血器疾患に使用する薬	貧血、播種性血管内凝固症候群、血友病の病態と薬物療法の理解	三浦
9	代謝・内分泌疾患に使用する薬	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、甲状腺疾患、副腎疾患の病態と薬物療法の理解	三浦
10	呼吸器疾患に使用する薬	気管支喘息の病態と薬物療法の理解	三浦
11	消化器系疾患に使用する薬	消化器系疾患の病態と薬物療法の理解	三浦
12	泌尿器・生殖器疾患に使用する薬	排尿障害、更年期障害、無月経等の病態と薬物療法の理解	三浦
13	感覚器疾患に使用する薬	皮膚科、眼科疾患の病態と薬物療法の理解	三浦
14	周術期、救命救急時に使用する薬	ショック、薬物中毒の病態とや薬物療法の理解	三浦

15	振り返りとまとめ		三浦
----	----------	--	----

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

筆記試験 80%、小テスト 10%、レポート 10%などで総合的に評価し、60 点以上で合格とする。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

授業の始まりの 10 分程度を利用して、前回授業に対する質疑応答を行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学

■ 参考書・参考資料等

- ・中嶋敏勝編著（2023）『疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学 第4版』医歯薬出版株式会社

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・事前に講義範囲のテキスト該当箇所を読み、予習をしておくこと。
- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修として平均するとそれぞれ 90 分程度必要とする。
- ・講義の初めに前回の講義内容に関する Q&A を実施する予定。

■ 担当教員からのメッセージ

授業前後の学修として、課題問題の解答や教科書の内容を読んで取り組んでください。また、日常生活で「薬」というキーワードを意識し、様々なメディアから見聞きする情報に触れる自己学習の機会を増やして下さい。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

臨床倫理研究センター長室（月曜から水曜）不在時、メールでご相談ください。

miura★iwate-uhms.ac.jp （※メールの際は★を@にしてください）

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

医師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

内科医（総合診療医・腎臓専門医）として長年経験してきたノウハウを活かし、臨床現場で役立つ講義内容を心がけています。